

## 事務事業評価表（一般事業）

1次評価日（主幹等） 30年3月31日

2次評価日（課長等） 30年3月31日

1 事業名	一般介護予防事業	コード	61122
-------	----------	-----	-------

2 担当部課	部等 健康福祉部	課等 介護福祉課	作成者 吉田 和正
--------	----------	----------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	ともに支えあい、健やかに暮らせるまち		
		政 策	福祉の充実	施 策	高齢者福祉の推進
		予算科目	一般介護予防事業費	業務委託	一部委託
		実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	あり
		根拠法令	介護保険法		

## ●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）
事業の概要 (簡潔に)	高齢者が要介護状態に陥ることなく、健康でいきいきとした生活を送ることができるよう、また、すでに要介護状態であっても、重度化を防ぐことができるよう、介護予防の普及啓発、リハビリテーション専門職等を活用した、地域における住民主体の介護予防活動の育成・支援を行い、住民自身や地域が自ら介護予防に取り組めるようになる。（「通いの場の創出」）	
目的	対象者	高齢者
	意 図	介護認定率の低下、介護給付費の上昇率の低減

5 事業の実施内容		*29年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容
介護予防把握事業 案内発送：14,281人 応募数：840人 通所型介護予防事業（ねこまめ先のびんぴんキラリ☆教室） 実施教室：29教室 実参加者数：568人 訪問型介護予防事業（ねこまめ訪問） 対象者数：10人 延べ訪問回数：93回 介護予防講演会 参加者数：105人 地域介護予防活動支援事業（生きがいデイサービス） 延べ回数：1,559回 登録者数：624人 地域介護予防活動支援事業（ねこまめ大使養成教室・フォロー教室） 実参加者数：17人 延べ参加人数：110人 地域介護予防活動支援事業（ほっとサロンモデル事業） 開催回数：12回 延べ参加者数：90人 地域リハビリテーション活動支援事業（出張！はつらつ教室） 実施回数：23回 延べ参加者数：316人 地域リハビリテーション活動支援事業（新規グループ活動支援事業）グループ数：6グループ 参加者数：46人		
前年度の課題への対応		

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)	
① 活動指標（指標名）	新規グループ活動支援事業グループ数			単位	グループ
実績値	0	0	6		
*指標の説明	立ち上げ支援のグループ数				
② 成果指標（指標名）	新規グループ活動支援事業グループ数			単位	グループ
目標値			2	6	
実績値			2		
達成度	-	-	100.0%		
*指標の説明	継続支援のグループ数				
*目標値の設定方法の説明	導入支援後継続して活動しているグループ数				

7 ア) コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 直接事業費	24,432,451	26,816,000	42,039,068	47,587,000
経常経費	24,432,451	26,816,000	42,039,068	47,587,000
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
② 人件費	8,000,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000
正規職員の人数(人)	1.00	1.00	1.00	1.00
③ 合計コスト(①+②)	32,432,451	34,816,000	50,039,068	55,587,000
前年度比		107.3%	143.7%	111.1%
財源	32,432,451	34,816,000	50,039,068	55,587,000
一般財源				
内訳				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト			8,339,845	
前年度比		-	-	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%

\* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

\* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

\* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。 成果指標の実績値 前年度比	-	
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。 成果指標の目標値 達成度	100.0%	

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	<p>(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民自身が自らの健康・生活・地域に目を向け、地域における住民主体の介護予防活動に取り組むための意識付けやきっかけ作りが不十分である。</li> </ul>	
	改善方法	<p>(上記の課題をふまえて30年度以降に実施する、具体的な改善の内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般介護予防事業の各種事業を通じて、岡谷市の現状や介護予防の重要性を住民に引き続き周知し、住民自身が自ら介護予防に取り組めるように働きかけていく。</li> <li>・既存の住民主体の活動については、継続できるように、必要時相談支援をしていく。</li> </ul>
		改善開始時期

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による30年度の優先度 *H28年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---